

クルマ・バイクの故障、
トラブルの受付

JAFロードサービス救援コール

全国共通、24時間年中無休

 **0570-00-8139**

通話料は有料(固定電話3分／9.35円、
携帯電話20秒／11円)。
IP電話等からはご利用になれません。
携帯電話の無料通話分対象外。

シャープ ハイサンキョウ
または短縮ダイヤル **#8139**

通話料は有料。固定電話[ダイヤル回線]
およびIP電話等からはご利用になれません。

※JAFスマートフォンアプリ(Android & iOS 対応)や
救援要請ウェブサイトからもJAFを呼ぶことができます。

住所変更などの各種手続き、
会員サービスのご案内

総合案内サービスセンター

全国共通

9:00～17:30(年末年始休業)

 **0570-00-2811**

通話料は有料(固定電話3分／9.35円、
携帯電話20秒／11円)。
IP電話等からはご利用になれません。
携帯電話の無料通話分対象外。

通話定額プランをご利用の方は
☎048-840-0036

ウェブからの
お問い合わせ

<https://support.jaf.or.jp/>

カテゴリごとに整理されたFAQ(よく
あるご質問)やお問い合わせフォーム
をご利用ください。

JAFマイページ

<https://jaf.jp/>

住所・電話番号の変更など各種手続き
がウェブで簡単にできます。

発行／一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)
〒105-0012
東京都港区芝大門1-1-30
日本自動車会館
制作／(株)JAFメディアワークス 2025年6月

 **JAF**
一般社団法人 日本自動車連盟

JAF  検索

JAFについてご紹介します。

a b o u t
JAF
2 0 2 5

CONTENTS 目次

いつでも、どこでも。 クルマとともに、暮らしとともに。	P02
くるま社会のセーフティネット	P04
会員優待サービスとイベント	P08
社会課題への取り組み	P12
モータースポーツの振興	P18
コミュニケーション	P20

 一般社団法人
日本自動車連盟

いつでも、どこでも。 クルマとともに、暮らしとともに。

JAFの基本理念

JAFは、安全と安心の支えとなるサービスを提供し、移動価値が高い社会の実現を目指します。

JAFの運営指針

- 1 サービスのJAF
私たちは、サービス精神をもって、社会のために尽くすことを事業推進の基本とします。
- 2 チャレンジするJAF
私たちは、つねに問題意識をもって改革を進め、創意工夫と旺盛なチャレンジ精神を発揮して、事業の推進に努めます。
- 3 開かれたJAF
私たちは、会員をはじめ多くの人々の声に耳を傾け、広く社会に開かれた組織を目指します。



一般社団法人
日本自動車連盟(JAF)

会長
坂口 正芳
Sakaguchi Masayoshi

私たちJAFは1963年の創立以来、モビリティユーザーに対し、安全と安心の支えとなるロードサービスをはじめ各種サービスを提供してまいりました。現在、会員数は2081万名を超え、皆さまからのご支援に心より感謝申し上げます。

JAFを取り巻く環境は、少子高齢化、モビリティの変化、インバウンド増加など多岐にわたりますが、「対話と共創」により、つねに変化し続け、安全・安心な地域社会を支えることを目指して事業を進めています。

ロードサービスでは、会員サービスの拡充と多様化するトラブルに対応するため、2024年4月にロードサービス利用約款を改定し、サービス内容や料金を変更しました。会員サービスのさらなる向上により、会員の方のロードサービス利用は増加しています。

さらに、全国8ブロックで開催しているロードサービス競技会を初めて一般公開しました。隊員の技術力や接客を多くの方に知っていただき、お客さま満足度の向上と隊員のスキルアップにつなげてまいります。

社会貢献活動では、令和6年能登半島地震に際して、特別支援隊を石川県に派遣し、復旧活動が円滑に進むよう、被災車両の救援にあたりました。JAFでは、被災地での救援要請に的確に対応できるよう、各地域の防災訓練に積極的に参加し、迅速に救援活動をおこなえる体制を整えています。

また、2024年度で9回目となる信号機のない横断歩道での歩行者保護についての調査では、停止率が過去最高の53.0%となりました。しかしながら、いまだに約半数のクルマが停止しない現状があり、引き続き関係機関と連携し啓発活動を進めてまいります。

自動車税制については、ガソリン税に上乗せされているいわゆる暫定税率の解消に向けた進展がありました。JAFが実施したアンケートでは、98.9%が自動車にかかる税金を「負担である」と回答している現状のなか、JAFが長年強く要望している公平・公正・簡素な自動車税制の実現に向けた前進です。

会員サービスでは、日常でご利用いただける会員優待施設の充実、ドライブスタンプラリーやイベントの実施など、さまざまな生活シーンで楽しめるコンテンツの拡充を進めています。

モータースポーツでは、トップカテゴリーの競技はもとより、初心者でも気軽に楽しめるオートテスト、ドリフトテストまで、全国各地でのJAF公認競技会の開催を支援しました。今後も各地域のモータースポーツクラブと連携し、さらなる活性化をはかってまいります。

JAFは、これからも健全なモビリティ社会の実現のために、「対話と共創」をテーマに、さまざまな事業活動に取り組んでまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

くるま社会の セーフティネット

トラブルの現場に急行し、迅速に救援。
信頼のロードサービスで、全国を広くカバーし、
くるま社会のセーフティネットを実現します。



救援は年間229万件以上
約13.7秒に1件の割合で出動



いつでもどこでも起こるかわからないクルマやバイクの
トラブル。救援要請を受けると、全国各地の拠点
から隊員が現場へ駆けつけ、速やかに車両救援
にあたります。2024年度の出動件数は229万件
以上。お客さまの安全・安心はもちろん、円滑な
交通環境の維持にも貢献しています。

2024年度 ロードサービス出動件数

	2024年度	2023年度
合計	2,295,304件	2,268,868件
うち二輪	92,632件	89,879件
一般道路	2,230,995件	2,202,922件
うち二輪	90,345件	87,355件
高速道路	64,309件	65,946件
うち二輪	2,287件	2,524件

2024年度 ロードサービス出動理由

一般道路・高速道路		
1 過放電バッテリー	778,537件	33.92%
2 タイヤのパンク、バースト、エア不足	467,132件	20.35%
3 破損/劣化バッテリー	193,856件	8.45%
四輪・二輪 合計		

ロードサービス拠点数(2025年3月末現在) 1,408か所

直営拠点



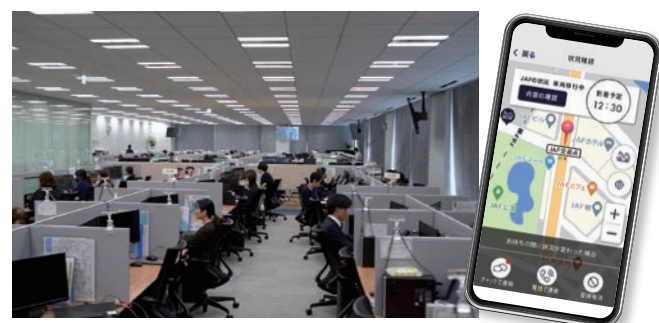
223か所

ロードサービス指定工場



1,185か所

スマートフォンから
救援要請が簡単に



電話での救援要請は、全国統一の救援ダイヤル
から。「JAFスマートフォンアプリ」や「救援要請ウェ
ブサイト」なら、画面での簡単な操作だけでJAFを
呼ぶことができます。GPS連携で現場特定もス
ムズなうえ、救援を待つ間もサービスカーの現在
地を確認できて安心です。

現場到着をより早く
「ACⅢ」で最適化を実現



サービスカーがいち早く到着できるよう導入されて
いるのが「ACⅢ」システム。予測できない救援要請
に対して、各車の動態や道路状況、ルートなどを考
慮しながら最適な配車管理を実現。拠点・ネット
ワークの調整とともに稼働強化に取り組み、2024年
度の平均現場到着時間は40.6分となりました。

いつでもどこでも
24時間・365日体制



JAFロードサービスは24時間・365日・無休で対応。
一般道路や高速道路上でのトラブルはもちろん、
お客さまの自宅車庫や外出先の駐車場などへも
駆けつけます。2024年4月から無料けん引距離を
延長するなど、会員サービスの拡大をはかってい
ます。

バイクの移動や
タイヤトラブル対応を拡充



バイクの移動は対応できるサービスカーが限られて
いましたが、二輪アタッチメントの開発により解決。
レッカー車でもバイクのけん引が可能となり、現場
へ迅速に到着できるようになりました。また、タイヤ
トラブルによる自走不能な乗用車を対象に、タイヤ
貸し出しサービス(会員限定)を実施しています。

ビデオ通話による
オンラインでの救援活動も



業界に先駆け、会員のみに提供している「ビデオ
アドバイザーロードサービス」。スマートフォンの
ビデオ通話機能を利用し、救援要請されたお客
さまから届くリアルタイム映像を確認しながらアド
バイス。サービスカーが出動することなく、オンラ
インでトラブルが解決するケースもあります。

「BEV充電サービス」 対象エリアを順次全国へ拡大



電気自動車（BEV）の電欠トラブルに対応するため、2023年8月から「BEV充電サービス」を一部地域で開始。充電器を搭載したサービスカーの導入を進め、対象エリアを全国へ拡大予定です。燃料電池車（FCEV）についても、トヨタ自動車（株）と移動式給水素車の開発に取り組んでいます。

多様化するトラブルにも 確実に対応



日々進歩するクルマの技術。多様化するトラブルに確実に応えるべく、最新技術に関する研修や、クルマに精通したテクニカルサポート課によるバックアップ体制を構築。蓄積してきた救援のノウハウは、ユーザー支援ウェブコンテンツ「クルマのトラブル診断」にも活用されています。

サービスの品質を支える 研修・検定制度と競技大会



すべての隊員が高品質かつ均質なサービスを提供できるよう、キャリアに応じた研修の受講や社内検定の受検が義務付けられています。実技や接遇、規律性の向上に日々励み、その成果を披露する場として「全国ロードサービス競技大会※」を開催。各エリア代表の隊員が磨き上げたスキルを競います。

※通常は隔年開催（2025年度に開催予定）

全国8ブロックで開催している 「ロードサービス競技会」を初の一般公開

「全国ロードサービス競技大会」の予選会として、全国を8ブロックに分けて実施している競技会。2024年度は各競技会を初めて一般公開し、救援作業を来場者の間近で披露。JAFが誇るロードサービスの技術力や安全・安心への取り組みをより多くの方に知っていただく機会となりました。



決勝大会を「競技大会」、予選会を「競技会」としています。

香川県高松市の大型ショッピングセンターの駐車場をお借りし、開催しました。

「なによりも人命最優先」 現場の安全確保を徹底



隊員が現場で真っ先におこなうのが「安全確保」。二次事故防止のために、高速道路などでは後方警戒を徹底し、安全資機材や発炎筒をセット。作業中、お客さまには安全ベストを着用してもらい、安全な場所で待機していただきます。夜間は通行車両からの視認性を確保し、作業にあたります。

選抜隊員で編成される ロードサービス特別支援隊



大規模災害発生時や豪雨・豪雪の季節災害時に派遣されるロードサービス特別支援隊。全隊員約2,000名のなかから、技術力・運転操作技量・忍耐力・協調性に優れた100名ほどが選抜され、特別な訓練を重ねます。2024年度も記録的な大雪に見舞われた地域に派遣され、車両救援に尽力しました。

地域防災における 関係機関との連携



自治体や警察、消防などと合同で、災害時を想定した防災訓練を定期的におこなっています。被災車両の救援や緊急交通路の確保など、実践訓練を通して各々の役割を確認。日頃から連携を深め、地域防災に貢献できるよう備えています。

2024年度 自治体などとの合同防災訓練への参加実績

回数	63回	参加隊員数	延べ147名
----	-----	-------	--------

お客さま満足度を アンケート調査



ロードサービスを利用したお客さまを対象にアンケートを実施しています。ロードサービス全体に対する評価として、97.0%※の方から「とても良い・良い」との回答をいただきました。結果については、さらに精査・分析し、サービス品質向上に役立てています。

※集計期間：2024年4月～2025年2月

会員優待サービス とイベント

全国で使える会員優待や楽しいイベント、暮らしの安心を支えるライフサポートなど、会員の生活に寄り添ったサービスを提供します。



飲食店やガソリンスタンドなど 会員優待施設は約4万4000か所※



さまざまなお店で割引や特典が受けられる会員優待サービス。会員証の提示(一部は予約などが必要)で利用できる手軽さが魅力です。飲食店や観光施設、温泉、道の駅など、全国各地に多彩な会員優待施設があり、お住まいエリアはもちろん、ドライブや旅行先でもおトクに利用できます。

※2025年3月末現在

会員優待施設の主なジャンル

グルメ／ショッピング／温泉・入浴施設／観光名所、動物園など／美術館、博物館／道の駅／ガソリンスタンド／アミューズメント／遊園地・テーマパーク／暮らし／アウトドア／SA・PA／宿泊／旅行／カルチャー／その他

「全国どこでも使える!」を目標にサービス強化



会員の皆さまが地域差なく会員優待を利用できるように、全国展開している企業や地域のチェーン店、オンラインで使えるサービスを強化。会員メリットを実感してもらえるよう、今後も会員優待施設の拡充に取り組みます。

about JAF 2025

クーポン利用者は年々増加 「JAFスマートフォンアプリ」



「JAFスマートフォンアプリ」では会員優待施設の検索をはじめ、アプリで表示できるデジタル会員証の提示で会員優待サービスを受けることができます。また、利用者のニーズや季節に応じたアプリクーポンを企画し、全国チェーン店から地元の優待施設で使えるクーポンまで多数配信しています。

ユーザーの好みに合った 「イチオシクーポン」で利用促進



続々と配信される「JAFアプリクーポン」。会員優待施設でクーポンを使えば使うほど、ユーザーの好みに合ったものが表示される機能があり、使いたくなるクーポンの発見率がアップ! 気になるクーポンをアプリ内の「お気に入り」に登録しておけば、店頭で利用する際にすぐに見つかり、クーポン提示もスムーズに。使い忘れ防止にも役立ちます。

※JAFアプリクーポンを一度も使ったことがない場合は、JAFおすすめのクーポンが表示されます。

切り取りクーポンが満載 「JAF PLUS」



機関誌「JAF Mate」と一緒に年4回お送りしている情報紙「JAF PLUS」。毎号、旬のおトク情報やお住まいエリアの会員優待情報をお届けしています。なかでも種類豊富に取り揃えている切り取りクーポンは、「JAFアプリクーポン」とともに根強い人気です。

永年継続会員の皆さま限定の 「JAFプレミアムサービス」



JAFを10年以上ご継続いただいている個人会員の皆さまに、特別なサービスを用意しています。

JAFプレミアムサービス

	10年以上	20年以上	30年以上
永年ステッカー進呈	○	○	○
永年継続会員向けJAF通販紀行特別販売	○	○	○
トラベルデスク	○	○	○
トラベルデスククーポン	—	—	○

JAF優待情報サイト 「JAFナビ」



会員向けのおトク情報を紹介しているウェブサイト「JAFナビ」。会員優待ページでは、会員優待施設検索のほか、キャンペーンや新規優待情報を随時更新。ドライブ情報ページでは、おでかけスポットやイベント、おすすめのドライブコースを掲載しています。会員はプレゼント企画への応募も可能です。

ドライブによる 地域振興活動



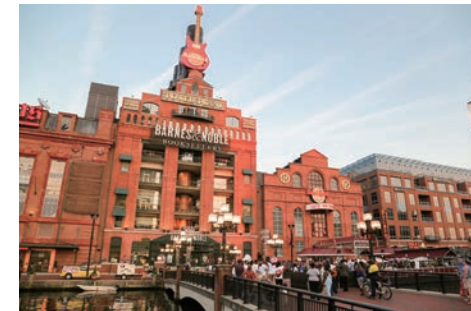
ドライブによる地域振興を目的に、全国の自治体や観光協会と連携してドライブスタンプラリーや各種イベントを開催しています。また、会員優待サービス・プレゼント企画を通じて、名産品や特産品をJAFの各種媒体でPRするなど、さまざまな活動を実施しています。

エリア周遊で交流人口増加を促す 「ドライブスタンプラリー」



アプリのダウンロード不要、スマートフォンで参加できるドライブスタンプラリーは、いつでもどこでも参加者が好きなタイミングで楽しめる点が人気です。2024年度は複数の自治体をまたぐ広域開催も多く、150コースを実施。スタンプ総押下数40万回以上と、地域の交流人口増加に寄与しました。

海外旅行先のレストランや ホテルなどもおトクに



会員はアメリカやカナダで現地自動車クラブのロードサービスを受けられるほか、レストランやホテルなどを特別料金で利用できます。一方、訪日した海外の自動車クラブ会員に対しては、国内約4,000か所*の施設で優待サービスを実施しています。

※2025年3月末現在

JAF会員はポイント2倍* 「JAF通販紀行」



JAFオリジナルミカやカーバッジなどのJAFグッズをはじめ、おしゃれを楽しむファッションアイテムや便利な雑貨など、豊かなカーライフを応援する商品を厳選して販売。JAF会員は買い物で貯まる「J.S.サンクスポイント」がいつでも2倍*。貯まったポイントは支払いに使うことができます。

※ECサイトからのご注文に限りです。販売：(株)JAFサービス

産学官連携で推進する 地域活性化プロジェクト



大学や自治体などと取り組む地域振興は、2024年度において7地方本部24支部が34校と活動しました。神奈川支部は國學院大學観光まちづくり学部・相模原市と連携。学生によるフィールドワークを通して相模原市内の「新たな観光スポット」を発掘、特設サイトで若年層に向けてPRしました。

思い出づくりにぴったり 楽しい会員向けイベント



JAFでは会員向けに、味覚狩りやものづくり体験など、四季折々の魅力を感じられる多彩なジャンルの体験型イベントを、全国各地で定期的に行っています。申し込みや支払いもウェブで簡単に手続き完了。親子連れからシニアまで、気軽に参加して思い出づくりができると好評です。

暮らしの安心も提供する 「JAFライフサポート」



「クルマの不安だけでなく、あらゆるシーンで頼れるJAFになりたい」。家計にうれしい会員優待サービスに加え、日々の暮らしをサポートするサービスも展開。60年以上ロードサービスの安全・安心に取り組んできたJAFだからこそ、毎日の生活にも安心をお届けできると考えています。

「JAFライフサポート」

●JAFでんき

JAF個人会員年会費4,000円分相当の特典*が毎年もらえるJAFの電気サービスです。申し込みは簡単シンプルで面倒な手続きもありません。

※特典提供には条件あり



サービス提供元：auエネルギー&ライフ(株)

●JAFの保険

医療保険、がん保険、傷害保険、介護保険など、さまざまな保険プランを用意しています。無料見積もりや加入もウェブから簡単にできます。



保険代理店：(株)JAFサービス保険部
保険引受会社：東京海上日動火災保険(株)
三井住友海上火災保険(株)

社会課題への取り組み

交通安全や税制問題などの課題に向き合い、自動車ユーザーや社会全体に向けた啓発活動で健全で明るいくま社会の発展を目指します。



about JAF 2025

実車を使って学べる 実技講習会



運転に苦手意識や不安を抱えるドライバーのために、マイカーでの体験型講習や車庫入れ講習を開催。インストラクターの指導のもと、実技体験を通して自分の運転技術を確認することができます。

2024年度 実技講習会 開催実績

	開催数	受講者数
ドライバーズセミナー	一般コース 39回	345名
	シニアコース 39回	299名
ニガ手克服講習(車庫入れなど)	58回	162名

高齢ドライバーの安全運転を 講習会やウェブでサポート



社会問題のひとつになっている高齢ドライバーによる交通事故。JAFではシニア向けの実技講習会を開催しているほか、ウェブサイト「エイジド・ドライバー総合応援サイト」で長く安全に運転するための情報を公開。オンラインで自分の認知・目・耳の機能状況の把握とトレーニングができます。

クルマに関する疑問を検証する 「JAFユーザーテスト」



自動車ユーザーが日頃感じている疑問や不安について、JAFが独自に実験・検証。チャイルドシートの安全性検証実験や真夏の車内温度の変化など、2024年度も社会ニーズを捉えた4つのテーマを検証しました。結果は公式YouTubeやウェブサイトで公開し、報道機関に資料提供もしています。

子どもたちが楽しく学べる 交通安全体験ツール



交通安全を学べるクイズに答えて発行される「子ども安全免許証」や反射材効果を視認できる「リフレクBOX」。体験を楽しみながら学べるツールで、交通安全意識を啓発しています。

2024年度 子ども安全免許証発行イベント 開催実績

開催数	2,236回	体験者数	192,971名
-----	--------	------	----------

2024年度 反射材効果体験 開催実績

開催数	560回	体験者数	66,276名
-----	------	------	---------

子どもたちに交通ルールを 教える「ドレミぐるーぷ」



2007年から続く「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」の活動。音楽愛好家らのボランティアグループの協力によって運営されており、幼稚園児・保育園児とその保護者を対象に、交通ルールを守ることの大切さを音楽を通じて伝えています。

2024年度「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」開催実績

公演数	131回	参加人数	13,059名
-----	------	------	---------

危険予知トレーニングなど ウェブで学べる交通安全



安全運転のコツや交通安全の知識を、パソコンやスマートフォンで気軽に学べるウェブコンテンツを提供。さまざまな危険を予測する「『実写版』危険予知・事故回避トレーニング」には、2024年度に「自転車編」「路面電車編」「踏切編」などの動画を計10本追加し、90本以上を公開中です。

ウェブサイトで公開中の主な交通安全啓発コンテンツ

●安全運転のコツ	
高齢運転者のための「エイジド・ドライバー総合応援サイト」	
『実写版』危険予知・事故回避トレーニング	
JAF交通安全トレーニング(法人向けサブスクリプションサービス)	
交通安全3分トレーニング(危険予知クイズ)	
動画でCheck! 交通安全カテゴリー10	
●いのちを守るために	●クルマの知識、悩みや疑問の解決
後席シートベルトの安心力	私にもできるマイカー点検
チャイルドシート完全ガイド	JAF Safety Light(ヘッドライトの使い方)
360度VR動画	クルマのトラブル診断
地震・台風・大雪時の運転は危険!知っておくべき注意点	クルマ何でも質問箱

もしもの状況を疑似体験する「360度VR動画」



クルマの水没や車両衝突など、危険シーンを再現したVR動画を公開。映像は360度自由に動かして視点を変えことができ、VRゴーグルを使えば臨場感のある映像体験が可能です。

地域や法人の座学講習に 専門講師を派遣



自治体や企業、高等学校などから依頼を受け、交通安全啓発の講習会や企業内研修に講師を派遣しています。依頼元に出向く出張型のほか、オンライン講習も対応可能。プログラムはJAFがこれまで蓄積してきたオリジナルデータを生かした内容です。

2024年度 座学型交通安全講習会実績		
回数	3,981回	受講者数 631,110名

法人向けeラーニング事業 「JAF交通安全トレーニング」

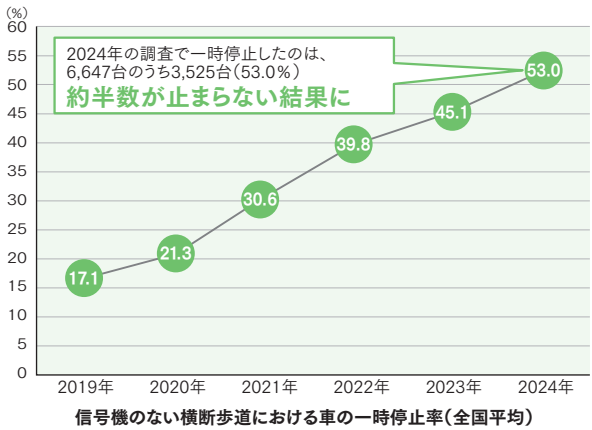


長年培った交通安全の知見とノウハウを教材化。安全運転管理業務に役立つサブスクリプションサービスを企業や団体に提供しています。短時間で学べるコンテンツを豊富に用意し、毎日の学習を通して受講者の交通安全意識を向上。契約企業の拡大に取り組むことで、交通事故減少を目指します。
運営：(株)JAFメディアワークス

「信号機のない横断歩道での 車の一時停止状況」全国調査



2024年で9回目となった「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況」全国調査。一時停止率の全国平均は過去最高の53.0%で増加傾向ではありますが、いまだに約半数が止まっています。こうした現状は毎回広く報道され、全国的な交通安全啓発につながっています。



「思いやりティドライブ」プロジェクト



横断歩道の全国調査もプロジェクトの一環です。結果はウェブサイトで公開中。

「街をゆくすべてのクルマが思いやりいっぱいだったら、もっと素敵な交通社会が成り立つはず」。そんな思いを叶えるために、交通ルールやマナーを守ることの大切さを発信。ひとりひとりの思いやりには社会を変える力があることを訴え、“共感の輪”を広げる活動を展開しています。

モビリティサービスを活用した 地域の交通課題への取り組み



観光地や過疎地など交通課題を抱える自治体や事業者において、新しい移動手段として期待されている「グリーンスローモビリティ」。JAFはヤマハ発動機(株)との協働事業で車両導入業務をおこなっており、これまで10自治体※に対し実証実験などを支援しました。

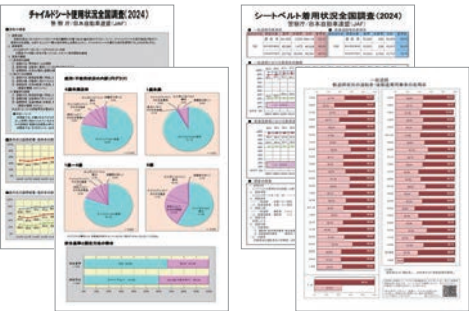
※2025年3月末現在

地域に役立つJAFを目指して 支部主体で進める地域貢献



全国各支部が地域との対話によって社会課題を発見し、解決を目指す「支部のあり方・未来構想プロジェクト」。地域で必要とされる存在になることを目的に、2024年度も複数の支部が路面電車の事故防止や野生動物との衝突事故防止などをテーマに、地元企業や関係機関と活動しました。

チャイルドシート使用・ シートベルト着用状況の全国調査



警察庁と合同で全国一斉におこなっている「チャイルドシート使用状況全国調査」と「シートベルト着用状況全国調査」。自動車ユーザーの実態把握のために、2002年からコロナ禍を除き毎年※実施しています。2024年度も調査結果をウェブサイトや「JAF Mate」で発信し、使用・着用の徹底を訴えました。

※2020・2021年の「チャイルドシート使用状況全国調査」は中止

すべての席での シートベルト着用を呼びかけ



シートベルト着用の重要性を伝える啓発活動を展開。シートベルト効果体験車による時速約5kmでの衝突体験やチャイルドシート取り付け点検、ウェブサイトでは実験動画を公開しています。

2024年度 シートベルト効果体験 開催実績			
開催数	831回	体験者数	121,803名
2024年度 チャイルドシート取り付け点検 開催実績			
開催数	65回	受講者数	310名

「災害時にクルマで困らない 社会づくり」を支援



JAFは(一社)日本カーシェアリング協会と「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」協定を2023年に締結しています。被災地にクルマを無償貸与している同協会が事務局となり、企業・団体・自治体が平時から連携し、協力体制を構築。大規模災害時の迅速なモビリティ支援の実現を目指します。

「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」 協定締結によるJAFの支援活動

(一社)日本カーシェアリング協会によるクルマの無償貸し出し活動をバックアップするとともに、支援の輪がもっと広がるよう、今後もさまざまな形で協力していく予定です。

1. JAF会員に向けた本活動に関する広報
2. 車両の寄付／車両提供呼びかけ
3. 被災者が所有する車両の点検 など



JAFはこれまでに社用車および職員のマイカーを16台寄付しました(2025年3月末現在)。

道路交通環境に関する 改善提案活動



信号機の設置状況や標識の不具合など、危険や不便を感じる道路環境。ドライバーや地域の方から寄せられた意見・要望を調査・検討して関係機関に改善提案するのが「交通安全実行委員会」です。2024年度は集まった336件のうち、250件を提案。以前からの案件を含め42件の改善が実現しました。

FIA加盟団体として グローバルに活動



世界の自動車クラブで構成されるFIA(国際自動車連盟)に加盟し、世界第3位の会員数を誇る団体として国際的に活動。2024年度はFIA担当者やオーストラリア自動車クラブと、複数のミーティングを実施し、ロードサービスおよび交通安全活動に関する課題の共有と意見交換をおこないました。

自動車税制見直しを求める 要望・提言活動



公平・公正・簡素な税制の実現に向け、各政党、関係省庁、国会議員に改善要望を提出しました。2024年12月には政府からガソリン暫定税率の廃止に向けた協議や車体課税の見直しについて発表されました。要望の実現に向けて今後も活動を継続していきます。

2024年度 自動車税制改正に関する活動

●自動車税制に関するアンケート調査

5～8月の調査で132,152名が回答。98.9%が「自動車に係る税金が負担」と答えました。なかでも「非常に負担に感じる」割合はここ数年で増加し、自動車ユーザーの重税感が浮き彫りに。

●自動車ユーザーへの活動

全国各地のイベント参加者を対象に、「自動車ユーザーの生の声を集める活動」を実施。2024年度は約1,000名の声が集まり、特に「ガソリン税」に関する意見が多く寄せられました。また、10～12月には全国実施となる街頭活動をおこない、関連団体とともに税負担軽減を訴えました。

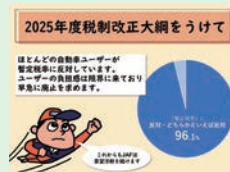


●要望・提言活動

「2025年度税制改正に関する要望書」をとりまとめ、各政党、関係省庁、国会議員などに提出しました。

●SNSで情報発信

Xで自動車税制について積極的にポスト。わかりやすい説明画像を投稿に添え、多くの方から共感を得ました。



外国運転免許証の 切り替えを支援



日本の運転免許証への切り替え時や、日本で運転する(特定国・地域に限る)際に必要となる、外国運転免許証の「日本語翻訳文」を発行。訪日外国人急増により2024年度の発行件数は過去最多に。「自動車カルネ」の発行・認証もおこなっています。

過去2年の「日本語による翻訳文」発行件数

2024年度	148,091件	2023年度	111,691件
--------	----------	--------	----------

日本で運転する 訪日・在日外国人へのサポート



コールセンターやロードサービスでは、英語、韓国語、中国語など22言語対応の通訳サービスを導入。訪日・在日外国人の増加を受け、日本で運転する外国人を対象としたアンケートや日本に居住するベトナム人との意見交換を通じ、共生社会の実現と地域課題の解決に取り組んでいます。

モータースポーツ の振興

競技参加のきっかけづくりから観戦の魅力発信まで
モータースポーツの一層の盛り上がりと
競技人口・ファン層の拡大に努めています。



about JAF 2025

モータースポーツの 統轄団体として



JAFは日本で唯一のFIA(国際自動車連盟)公認団体です。国内競技の安全・公平・公正な開催をはじめ、オートテストの促進や女性参加支援などによる競技人口の拡大に尽力。近年は環境対応車両競技やEモータースポーツの普及も推進しています。

過去2年間の競技会公認件数

2024年	787件	2023年	784件
-------	------	-------	------

ライセンス取得を促進 発給数は年間7万件以上



ライセンスを取りやすい環境づくりにも取り組んでいます。ゴーカートライセンスは年齢やJAF入会の有無を問わず取得可能。また、四輪国内Bライセンスは講習会をオンライン化し、マイカーで参加できるオートテストへの出場でも取得資格が得られます。

過去2年間の競技ライセンス発給数

2024年	71,672件	2023年	71,562件
-------	---------	-------	---------

「モータースポーツジャパン」など 振興イベントを開催



2025年3月に、JAF主催の振興イベント「JAFモータースポーツジャパン2025 in 横浜」を開催。2日間で延べ4万4500人が来場し、デモ走行や同乗体験、マシンの展示など多彩なコンテンツを楽しみました。主要なレース会場にもJAFブースを出展し、モータースポーツの魅力を発信しています。

通算23回目 伝統のJAF鈴鹿グランプリ



国内フォーミュラの最高峰・全日本スーパーフォーミュラ選手権の最終戦に冠される「JAFグランプリ」。2024年は三重県・鈴鹿サーキットにて11月に開催されました。当日は体験型JAFブース出展のほか、元F1ドライバーなど著名人によるトークショーを実施し、好評を博しました。

FIA世界選手権の 日本開催を支援



日本でおこなわれる各種FIA世界選手権の開催をサポートするのもJAFの役目です。1月から始まるモータースポーツシーズンにおいて、2024年には4つのFIA世界選手権が日本国内で開催されました。各大会の実現に向けて打ち合わせや視察をおこない、開催の支援に携わりました。

「ドライバー・オブ・ザ・イヤー」と 年間上位入賞者を称える表彰式



国内モータースポーツの一年を締めくくる表彰式。2024年11月、都内会場に各カテゴリーのチャンピオンや上位入賞者が集まりました。その年最も輝いた競技運転者を投票で決める「ドライバー・オブ・ザ・イヤー」には角田裕毅選手が選ばれ、登壇したスポーツ庁長官・室伏広治氏がその栄誉を称えました。

安全な競技開催のため 関係者対象の講習会を実施



ラリー競技におけるスペシャルステージの安全性向上を目的とした講習会や、次世代自動車を用いた講習会を全国4か所で実施し、延べ462名が参加しました。また、2025年3月には来るフォーミュラE開催に備え、コースオフィシャル対象の実技講習会をモータースポーツジャパン会場でおこないました。

コミュニケーション

JAFのサービスを気軽に快適に。
コミュニケーションの充実をはかり、
皆さまに役立つ情報をお届けしています。



JAFスマートフォンアプリ

Android & iOS 対応

便利な機能を備えた公式アプリ
JAFのサービスをスマホひとつで快適に

JAFのサービスを簡単・便利に利用できる「JAFスマートフォンアプリ」。「デジタル会員証」「会員優待施設・クーポン検索」「ロードサービス救援要請」の3つの機能をメインに、その他のサービスにもスムーズなアプローチが可能です。2025年3月末現在、アプリ登録者は前年度から約73万名増え、742万名以上となりました。日常的にアプリを使っていただけるよう、ドラッグストアや回転寿司チェーン店など、普段使えるクーポンを積極的に配信。クーポンを利用すると抽選でデジタルギフトが当たるキャンペーンを実施し、アプリの利用促進と満足度向上に努めました。



詳細・ダウンロードはこちらから

機能紹介

デジタル会員証

※個人会員・家族会員限定



ロードサービスや会員優待サービスも、デジタル会員証の画面提示で利用できます。

会員優待施設・クーポン検索



現在地やエリア、キーワード、ジャンルなどから、会員優待施設・クーポンを検索できます。

ロードサービス救援要請



GPS機能との連携で救援場所を特定。質問に答えるだけの簡単操作でJAFを呼べます。

ウェブサイト

コーポレートサイト



ロードサービス、交通安全、地域ニュース、企業情報など、JAFの活動やサービスを幅広く紹介。「マイページ」では、会員自身の登録情報を確認・変更することができます。

JAF Mate Online



機関誌「JAF Mate」のオンライン版で、カーライフや暮らしに役立つ記事を日々更新。メルマガやアプリとの連携を強化し、2024年度のアクセス数は前年度の約1.8倍になりました。

JAFナビ



JAF優待情報サイトとして、全国各地の会員優待施設を検索できるほか、ドライブコース・観光スポット・イベント情報が満載。会員向けプレゼント企画も充実しています。

JAFモータースポーツ



競技会カレンダーやリザルト、最新トピックのほか、基礎知識としてモータースポーツの歴史や各種目の概要などを紹介。競技者も初心者も楽しめるコンテンツを用意しています。

機関誌など

「JAF Mate」



年4回、会員の皆さまにお届けしている機関誌。連載記事「日本の魅力、再発見」をはじめ、交通安全情報、会員サービス案内を掲載。著名人のエッセイや時の人へのインタビューも人気です。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2025年春号 13,602,100部

「JAF PLUS」



「JAF Mate」と一緒にお届けしている情報紙。人気の切り取りクーポンのほか、お住まいエリアの会員優待情報やイベントなど、おトクな情報が盛りだくさんです。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2025年春号 13,494,830部

「JAFスポーツ」



ライセンス所有者に年4回送付している機関誌。モータースポーツの最新ニュースはもちろん、迫力ある写真とともに伝える競技の詳細レポートやインタビュー記事は読み応えたっぷり。

対象	ライセンス所持者
発行部数	2025年春号 47,600部

ソーシャルメディア

詳しくは



X

JAF



JAF モータースポーツ



JAF_PLUS_Tokyo



情報発信とユーザーとの双方向コミュニケーションのためにXを活用しています。2024年度、特に反響が大きかったのはJAF公式アカウントのガソリン税に関するポスト。前年度に引き続き、ユーザーからの反応が多い投稿となりました。また、JAFの制服を新たな製品へと生まれ変わらせる「アップサイクルプロジェクト」のクラウドファンディングでは、Xでのご案内を通じて多くの方からご支援をいただくことができました。

Facebook

JAF 日本自動車連盟



JAF モータースポーツ



公式アカウントは2つ。JAFからの最新ニュース、交通安全・クルマに関するお役立ち情報、そして、モータースポーツファンに向けて気になるトピックやタイムリーな話題を発信しています。

YouTube

JAF Channel

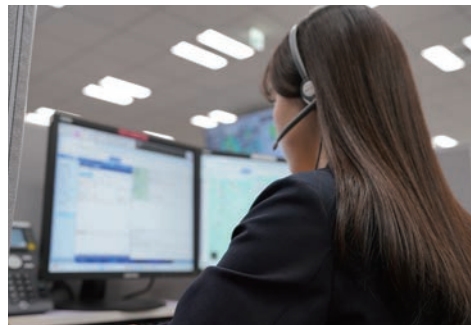


JAF MOTORSPORTS



YouTubeで幅広く多くの人に情報を発信。「JAF Channel」では交通安全やJAFの活動に関する動画をアップ。「JAF MOTORSPORTS」は国内四輪モータースポーツ専門チャンネルです。

応対品質とお客さま満足度の向上を目指して



コールセンター／支部窓口

「総合案内サービスセンター」では、各種手続きやサービスのご案内をしています。継続的に通話応答率や応対品質の向上に取り組み、2024年度のコールセンター（問合せ窓口）の格付け調査では、最高ランクの「三つ星」を獲得しました。また、支部の対面窓口では、待ち時間短縮や混雑回避のため、来店の前予約サービスを導入。お客さまへのスピーディな対応に努めています。

8地方本部と全国の在籍会員数

北海道本部 会員数839,182名

札幌支部 函館支部 旭川支部
釧路支部 帯広支部 北見支部

東北本部 会員数1,520,767名

青森支部 岩手支部 宮城支部
福島支部 秋田支部 山形支部

関東本部 会員数6,836,847名

新潟支部 長野支部 茨城支部 栃木支部 群馬支部
埼玉支部 千葉支部 東京支部 神奈川支部 山梨支部

中部本部 会員数4,134,695名

富山支部 石川支部 福井支部 岐阜支部
静岡支部 愛知支部 三重支部

関西本部 会員数3,289,800名

滋賀支部 京都支部 大阪支部
兵庫支部 奈良支部 和歌山支部

中国本部 会員数1,236,874名

鳥取支部 島根支部 岡山支部
広島支部 山口支部

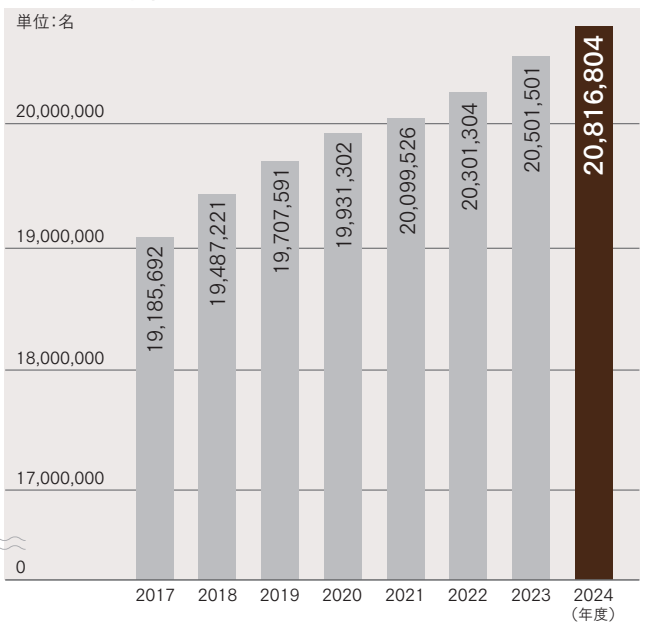
四国本部 会員数607,235名

徳島支部 香川支部
愛媛支部 高知支部

九州本部 会員数2,351,404名

福岡支部 佐賀支部 長崎支部
熊本支部 大分支部 宮崎支部
鹿児島支部 沖縄支部

会員数の推移（グラフは各年度末時点）



一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)

創立	1963年(昭和38年)4月1日
活動拠点	1本部／8地方本部／52支部
職員数	3,496名

会員

種類	会員数
個人会員	13,552,860名
家族会員*	6,345,915名
法人会員	918,029名

※個人会員と同居または生計を同一にする家族（個人会員1名につき5名まで）